

平成 30 年度 自己評価の結果について

学校法人博愛社学園 博愛社学園幼稚園

1. 本園の教育目標

本園はキリスト教の精神に基づき、幼い時から「神と人を愛する」正直で愛情と勇気に富み、「命の大切さを尊ぶ」豊かな情操をもった園児の育成を目標に教育を目指す。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解を図り、教職員の質を高めるため研修も充実させる。目に見えない空間、環境を大事にし、園児のこころの成長にプラスになるよう努める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
幼児の発達段階に即した教育課程の編成になっているか。保育内容・指導のあり方を精査し、指導計画を振り返り、教育内容を充実させる	月案・週案など計画性を持って準備・保育に努める。 様々な体験を通して感性を育て、経験や達成感を味わえる機会を沢山持ち、毎日、子どもの様子が分かるよう、伝達・意見交換・共通理解が出来るようにしている。
教育の質の向上のために園内及び園外研修を充実させる	教育専門家としての能力・姿勢・責任等の資質向上を図り、それぞれの課題に取り組んでいる。 建学の精神、保育目標を深く理解していき、誠実に努めることを忘れず日常の意欲・態度・信条を大事なことと自覚していけるよう職員ひとりひとりが神さまの愛を感じ、信じる者となり、愛を伝えていけるようにしている。
保育の在り方、幼児への対応	園児との関わりの中で常にひとりひとりの見取りと理解が出来る様、職員間でも意見交換しながら、見つめていくようにしている。園内での健康、安全、衛生に努めている。
保護者への対応	おたより、送迎の際、懇談、電話、ホームページ等で行っている。 保護者から出された意見に対しては、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善出来る様取り組んでいる。
特別支援教育を教職員全体で取り組めるように共通理解をする。	専門の特別支援相談員を中心に支援の具体的方法を検討し、今後の対応を考慮している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

職員ひとりひとりが、良い部分や課題・改善を進めて行くにあたって自己評価・学校評価により客観的に振り返る事が出来た。

5. 今後取り組むべき課題

■子育て支援

子育て支援預かり保育の充実と園庭開放・未就園児クラスなどの開設を検討していく。

■地域に開かれた園

老人ホームの訪問、地域行事などの参加や地域の方に来園して頂く機会を持ち、開かれた園を目指していく。

■特別支援教育

教育的支援の共通理解を深める。保護者への理解を深める。

■施設設備の充実

認定こども園に移行するため、子どもにとってより充実した保育環境の整備準備にとりかかる。

6. 学校関係者の評価

- 素晴らしい幼稚園なのになくなるのは本当に残念です。
 - 園舎は古いですが、行われている保育の雰囲気にとりあってお祈りがいっぱい幼稚園・園舎を感じます。
 - 行事など園児がとても楽しそうにして、普段の様子がみえました。
 - 毎日の保育のプログラムが色々あり、子ども達の成長に繋がります。
 - 色々な状況の中で本当にひとりひとりを大事にして頂き、きっととても大変だろうなと思います。
 - 親の見ていない所で子どもと向き合い、ひとりひとりを大事にされているのを感じました。
 - 子ども達が茶道の時間を楽しみにしてくれていて、長い時間正座をしている姿にいつも感心しています。これからも日本の文化にいろいろと触れて成長して欲しいです。
-

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。